

韓国日本語学会 ニュースレター [2019-02]



発行人：李吉鎔 / 編集人：朴江訓・孫榮爽・中村有里 / 発行所：韓国日本語学会 / 発行日：2019.3.19.

副学会長挨拶	1
役員名簿	2
会員近況	3
常任理事会	4
編集委員会	5
第39回学術大会プログラム	6
『日本語学研究』論文投稿案内	16

중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실
 〒06974 서울시 동작구 흑석로 84
 中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室
 〒06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84
 H.P : 010・8917・9469(事務局長:全紫蓮)

E-mail : jlak123@hanmail.net Homepage : <http://www.jlak.or.kr>

主席副学会長挨拶

韓国日本語学会会員の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。



花冷えも多少和らぎ、春の息吹が感じられる暖かな3月がやってまいりました。会員の皆様の新たな門出をお祝い申し上げます。厳しい寒さを耐え抜いた木々だけが春に美しい花を咲かせることができるように、本学会も寒い冬を耐え凌ぎ、暖かな春の3月に国際学術大会を開催する運びとなりました。この意義深い場に、会員の皆様のご参加を賜りたく存じます。

来たる3月23日(土)、明知専門大学にて「日本語学研究の現状と展望」という主題で、第39回春季国際学術大会を開催いたします。まず、企画招聘講演では、本学会の学術誌『日本語学研究(2019.3.)』第59輯の特別企画にご寄稿くださいました3名のご著名な先生方、音声・音韻研究の酒井真弓先生(徳成女子大)、文法研究の李暉洙先生(放送大)、日本語教育研究の趙南星先生(ハンバット大)をお招きし、各分野の研究の現状と展望を拝聴するとともに、今後の日本語学研究の方向性を模索する討論の場を設けました。また、コンピュータ言語学者としてご著名な、東北大学の吉本啓先生をお招きし、「統語・意味解析情報付き日本語コーパス構築とその文法研究への応用」という主題の特別講演を拝聴します。このご講演では、日本語文法研究の方法論のひとつとして新たに開発がなされているコーパスをご紹介します。さらに、一般発表(21)およびポスター発表(4)では、日本語および日本語教育研究分野の多方面にわたる研究成果をご発表いただきますが、各発表会場では活発な議論が繰り上げられることと思います。

新学期が始まり授業準備等でご多忙な中、素晴らしい研究成果をご発表くださいます先生方、討論・司会・座長をお引き受けくださいました先生方に、心より御礼申し上げます。また、学術大会の準備にご尽力くださいました明知専門大学日本語科の先生方ならびに学生のみなさんにも感謝いたします。そして、今大会のために惜しみないご後援をくださいました国際交流基金ソウル日本文化センター様、時事日本語社様にも、深く御礼申し上げます。

最後に、都鍾煥の「ゆれずに咲く花がどこにあるか」という詩の一節が思い出されます。今回の大会を通じて会員の皆様方の知識と知恵をお寄せいただきますことで、今後の韓国における日本語学研究がより一層発展することを確信いたします。お忙しいことは存じますが、ぜひご参加いただき、日本語学分野の研究者の皆様とご交流いただくことで、学問的な渇きを思う存分癒せる議論の場となりますことを願ってやみません。

では、3月23日(土)、明知専門大学にてお目にかかります。

2019年 3月
 韓国日本語学会 第10代主席副会長 高慧禎

役員名簿

■常任理事

役職	氏名	所属	E-mail	
会長	李吉鎔	中央大	ih_kilyong@cau.ac.kr	
副会長	主席	高慧禎	カトリック関東大	nunbusida@hanmail.net
	学術	盧姪鉉	徳成女子大	chel99@hanmail.net
	研究	黄永熙	漢陽サイバー大	tohyh@hanmail.net
	教育	早欠仕智子	大真大	tomomokankoku@hotmail.com
	事業企画	南得鉉	明知専門大	aruiru@hanmail.net
総務	河在必	韓国外大	hajp75@hufs.ac.kr	
	全紫蓮	韓国外大	shizen9021@daum.net	
財務	張允娥	中央大	willyoubehere@gmail.com	
	林始恩	韓国外大	lse923@naver.com	
学術	琴鍾愛	忠南大	jakeum@cnu.ac.kr	
	高恩淑	韓国外大	haimosimosi@hanmail.net	
	宋殷美	白石芸大	yaltoo@hanmail.net	
	郭銀心	京畿大	kwak5017@naver.com	
編集	金義泳	徳成女子大	cara202@gmail.com	
	姜美善	漢陽女子大	haruaki2070@hanmail.net	
	辛銀眞	明知大	shineunjin.kr@gmail.com	
	鄭賢児	西京大	nabinabi75@naver.com	
出版	方允炯	水原大	yh-bang@hanmail.net	
	朴孝庚	漢陽サイバー大	phk0502@hanmail.net	
情報	国生和美	東国大	kazumi0121@naver.com	
	張良光	カトリック大	kwang-kana@hotmail.com	
	崔惠貞	建国大	elli-c@hanmail.net	
広報	朴江訓	全州大	hun0531@naver.com	
	中村有里	仁川大	yoolee1220@yahoo.co.jp	
国際	孫榮奭	濟州大	freewill1472@naver.com	
	本多美保	梨花女子大	mhonda@naver.com	
	李埈瑞	聖潔大	korjs2@gmail.com	
	趙宣映	仁川大	sy218@inu.ac.kr	
対外協力	Lee, Duck-Yong	The Australian National Univ.	duck.lee@anu.edu.au	
	盛文忠	上海外国語大学	swz_42281@163.com	
	鄭惠先	北海道大学	jung@oia.hokudai.ac.jp	
	金庚芬	明星大学	kimkb@ge.meisei-u.ac.jp	
	朴秀娟	神戸大学	parksooyun@gmail.com	
	金照雄	時事日本語社	marketing1@korea.com	
	宋惠仙	仁徳大	shs1023@induk.ac.kr	
	趙恩英	啓明大	choeun215@gmail.com	
	殷守希	淑明女子大	esh0407@naver.com	
	川口慶子	崇実大	keikochan922@hotmail.com	
事業企画	尹榮珉	延世大	marchen52@naver.com	
	角ゆりか	明知大	whitelily1227@hotmail.co.jp	
	趙容蘭	中央大	yclovely@nate.com	
	金惠娟	聖潔大	mahou@hanmail.net	
	岩井朝乃	弘益大	asano-iwai@msc.biglobe.ne.jp	
李相怡	東国大	zzivi@hanmail.net		

会員近況

○ 図書および教材(教科書)出版情報

- ・ 嶋義直(2018)『批判的談話研究をはじめる』ひつじ書房
- ・ 持田祐美子, 伊吹早耶香, 伊藤貴雄(2018)『“スピーチ”に強くなる日本語作文トレーニング』時事日本語社

○ 勤務先変更

- ・ 金惠娟 会員
聖潔大学校教養学部助教授(研究教授)に任用(2019.3)
- ・ 申雄哲 会員
慶星大学校韓国漢字研究所HK+漢字文明研究事業団HK研究教授に任用(2018.10)

○ 趙宣映 会員

仁川大学校師範大学日語教育科副教授に任用(2019.3)

○ 学位取得

・ 李允姫 会員

学位取得: 慶熙大学校観光学博士学位取得(2019.2)

題 目: 外国人労働者の韓国国内旅行の動機, 態度および社会文化への適応が行動意図に及ぼす影響に関する研究—余暇制約交渉理論を中心に

現 職: 白石芸術大学校外国語学部日本語兼任教授

○ 事務局

〒06974 서울시 동작구 흑석로 84
중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실

〒06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84
中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室

E-mail : jlak123@hanmail.net Homepage : <http://www.jlak.or.kr>

● 審査料及び掲載料の納付先
国民銀行(kookmin Bank) 884201-04-150294 이길용(한국일본어학회) 李吉鎔(韓国日本語学会)

- ・ 韓国日本語学会では海外団体会員(台湾日本語学会、日本国立国語研究所、国際交流基金日本語国際センター)に定期的に学術誌を発送しています。個人会員の場合は学会運営の関係上、郵送料をいただいております。学会誌の発送をご希望の方は事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。学会誌に記載された論文は創刊号から最新号まで学会ホームページの学会誌(http://jlak.or.kr/modules/doc/index.php?doc=search&M_ID=27)よりダウンロードできますのでご利用ください。

常任理事会

【第10代常任理事会5次】

日時：2019年1月11日(金)

場所：時事日本語社本館2階205号室

・ 2019年分科別新任担当理事報告

- 1) 財務・学術・編集・広報・情報分科2019年度担当理事紹介

・ 学術誌関連報告

- 1) 2018年学術雑誌継続評価「登載学術誌維持」判定
- 2) 58輯(2018年12月20日発行)報告
- 3) 59輯(2019年3月20日発行予定)特別企画展望論文投稿現状および業務報告
- 4) 論文審査段階改定：「掲載可能 / 修正後掲載可能 / 掲載不可」に改定(60輯より)
- 5) <投稿要領>中「参考文献」に関する文言を修正
- 6) <投稿規定>中「掲載限度」に関する文言を修正

・ 3月学会準備状況確認

- 1) 3月学会開催日時および場所：3月23日(土)、明知専門大学
- 2) 3月学会主題：「韓国における日本語学研究的現状と展望(仮題)」
- 3) 募集発表者数、発表会場数：追って論議が必要

・ 2019年度韓国研究財団学術大会支援事業申請準備

- 1) 第40回秋季国際学術大会：2019年9月21日、開催場所未定
- 2) 3月中旬の申請に備え、2月末までに学術大会開催に関する詳細な論議が必要
 - 大会主題および開催場所確定、発表者早期募集 等



編集委員会

【59輯編集委員会】

・ 第1次編集委員会 (2019. 1. 11. 時事日本語学院本館303号室)

- 1) 第59輯投稿論文確認および報告(19編)
- 2) 第59輯投稿論文審査委員選定
- 3) 第59輯審査日程論議
- 4) 第59輯投稿論文審査依頼
- 5) <投稿規定>中「掲載限度」に関する文言を修正(例外規定追加)

・ 第2次編輯委員会 (2019. 2. 5. サイバー編集委員会)

- 1) 第59輯審査進行確認

・ 第3次編集委員会 (2019. 2. 11. 時事日本語学院本館303号室)

- 1) 第59輯投稿論文審査結果報告および確認
- 2) 第59輯投稿論文を審査の結果、12編の掲載を決定
- 3) 第59輯審査結果通知および投稿者修正依頼

・ 第4次編集委員会 (2019. 2. 26. サイバー編集委員会)

- 1) 第59輯投稿者修正内容確認
- 2) 英文要旨監修依頼、チェックサラン編集依頼

・ 第5次編集委員会 (2019. 3. 4. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第59輯1次刊行作業経過確認
- 2) 第59輯1次刊行作業および校正作業

・ 第6次編集委員会 (2019. 3. 7. 図書出版チェックサラン)

- 1) 第59輯最終校正作業
- 2) 第59輯印刷依頼
- 3) 編集委員会今後の日程確認

・ 『日本語学研究』第59発刊 (2019. 3. 20.)



韓國日本語學會 第39回 國際學術發表大會

< 主題 >

일본어학 연구의 현황과 전망
(日本語学研究的現状と展望)

< 企画招請講演 >

日本語学研究的現状(2017~2018)と展望
李暎洙(放送大)・趙南星(Hanbat大)・酒井真弓(徳成女大)

< 特別講演 >

統語・意味解析情報付き日本語コーパス構築と
その文法研究への応用
吉本 啓 (東北大学)

- ・日時：2019年 3月 23日(土)
- ・場所：明知専門大學
- ・主催：韓國日本語學會
- ・主管：韓國日本語學會, 明知専門大學 日本語科
- ・後援：明知専門大學, JAPAN FOUNDATION SEOUL, 時事日本語社



韓國日本語學會
The Japanese Language Association of Korea

韓國日本語學會

第39回 國際學術發表大會

- 日時：2019年 3月 23日(土)
- 場所：明知専門大學 本館 7階

< Program >

09:30-10:00	接受		本館 7層 Lobby	
10:00-12:00	・ 一般發表	・第1發表會場 ・第2發表會場 ・第3發表會場 ・第4發表會場	本館 705 本館 708 本館 709 本館 711	
12:00-13:20	中食・交流		本館 地下1層 cafeteria	
13:20-13:40	・ 開會式	社會教育館 地下1層101		
	<司會：河在必(韓國外大)> ・ 開會辭：高慧禎 首席副會長 (Catholic關東大) ・ 祝辭：山崎宏樹 所長 (日本國際交流基金ソウル文化センター)			
13:40-15:10	・ 企画招請講演			<司會：趙宣映(仁川大)> 李暎洙 (放送大) 趙南星 (Hanbat大) 酒井真弓(徳成女大)
15:10-15:20	休息			
15:20-16:00	・ 特別講演	<司會：河在必(韓國外大)> 吉本 啓 (東北大学)		
16:00-16:10	休息			
16:10-18:10	Poster Session (16:00-17:10)		本館 1層 M STREET STUDY ROOM	
	・ 一般發表	・第1發表會場 ・第2發表會場 ・第3發表會場 ・第4發表會場	本館 705 本館 708 本館 709 本館 711	
18:10-19:30	懇談會		本館 地下1層 cafeteria	

〈企劃招請講演〉

13:40-15:10

[社會教育館 地下1層 101]

司會: 趙宣映(仁川大)

日本語学研究的現状(2017~2018)と展望

- ・ 文法研究的現状と展望 李暉洙(放送大)
- ・ 日本語教育的現状と展望 趙南星(Hanbat大)
- ・ 音声・音韻研究的現状と展望 酒井真弓(徳成女大)
- ・ 討論者: 朴江訓(全州大)・辛銀眞(明知大)・関光準(建國大)

〈特別講演〉

15:20-16:00

[社會教育館 地下1層 101]

司會: 河在必(韓國外大)

統語・意味解析情報付き日本語コーパス構築とその文法研究への応用

吉本 啓 (東北大学)

第1発表会場

[本館 705]

■ 日本語教育

座長: 蔡京希(培花女大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	南得玟 (明知専門大)	일본어 비전공자를 위한 JLPT 교재 개발에 관한 연구 -N5문자・어휘를 중심으로- 非専攻日本語学習者のための JLPT教材開発に関する研究 -N5文字・語彙を中心に-	韓	檢校裕朗 (榎東大) 劉鎰眞 (三育大)	黃圭三 (瑞逸大)
10:40 -11:20	千仙永 (早稲田大)	중학교 생활일본어에 나타난 발음요소 분석 -2015 개정 교육과정 및 교과서를 대상으로- 中学校生活日本語における発音要素分析 -2015年改訂教育課程及び教科書を対象に-	韓	金義泳 (徳成女大) 辛銀眞 (明知大)	李接瑞 (聖澤大)
11:20 -12:00	小島壱嗣 (培材大)	JLPT(日本語能力試験)とOPI(Oral Proficiency Interview)のレベルの関連性についての一考察 -初級者の語彙レベルの検訂から-	日	金英児 (團光大) 陸心芳 (南山大外国語教育センター)	東ヶ崎祐一 (慶熙大)
12:00 -13:20	中食・交流				
13:20 -13:40	開會式				
13:40 -15:10	企劃招請講演				
15:10 -15:20	休息				
15:20 -16:00	特別講演				
16:00 -16:10	休息				

■ 文法

座長: 趙南星(Hanbat大)

16:10 -16:50	堤 良一 (岡山大) 朴秀娟 (神戸大)	裸の助詞の出現可能性に関する日韓の相違について	日	井田 泉 (順天婦大) 峯崎知子 (弘益大)	宋駿美 (白石藝大)
16:50 -17:30	河在必 (韓國外大)	現代日本語の動詞由来の「後置詞」をめぐって -構文的な機能からの後置詞のタイプ分けをめざして-	日	方允河 (水原大) 申義植 (韓國外大)	崔鍾勳 (仁徳大)

第2発表会場

[本館 708]

▣ 語彙・対照

座長: 朴才煥(京畿大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	李忠奎 (西原大)	「너무」と「あまり」の対照研究	韓	崔銀姬 (西江大) 全紫蓮 (韓國外大)	孫貞淑 (瑞逸大)
10:40 -11:20	殷守希 (韓國外大)	통각(痛覚)오노마토피어에 관한 일·한대조연구 痛覚オノマトベに関する日・韓対照研究	韓	金桂連 (韓國外大) 宋殷美 (白石藝大)	朴用厲 (仁荷大)
11:20 -12:00	劉막음 (Catholic 關東大)	日本語複合助詞「において」と 「にかけて」 —韓国語との対照を中心に—	日	權城 (Hanbat大) 李廷玉 (崇賢大)	文影鶴 (韓國外大)
12:00 -13:20	中食・交流				
13:20 -13:40	開會式				
13:40 -15:10	企劃部招聘講演				
15:10 -15:20	休息				
15:20 -16:00	特別講演				
16:00 -16:10	休息				

▣ 音韻

座長: 崔殷赫(仁川大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
16:10 -16:50	李相治 (明知専門大)	메트릭 한자음 唇音系の 반영양상 —한일 한자음파의 비교를 중심으로— ベトナム漢字音での唇音系の反映様相 —韓日漢字音との比較を中心に—	韓	崔志守 (漢陽女大) 白惠英 (東國大)	權景愛 (韓國外大)
16:50 -17:30	文昶允 (嶺南大)	世代差にみられる短縮語形の指向性 —後部要素の2モーラ目に長音を含む 複合外来語の場合—	日	桂川智子 (建國大) 崔淑伊 (韓國外大)	李宗哲 (東國大)

第3発表会場

[本館 709]

▣ 文法

座長: 閔光準(建國大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40					
10:40 -11:20	金智賢 (宮崎大)	日本語と韓国語の分裂文の特徴	日	尹榮昆 (延世大) 崔廷民 (建國大)	朴海煥 (淑明女大)
11:20 -12:00	朴江訓 (全州大)	부정과 호응하는 한일 한정 부조사 의 문법화 대조연구 否定述語と呼応する韓日語の副助詞の 文法化の対照研究	韓	金賢娥 (高麗大) 金惠娟 (聖潔大)	成琬珂 (祥明大)
12:00 -13:20	中食・交流				
13:20 -13:40	開會式				
13:40 -15:10	企劃部招聘講演				
15:10 -15:20	休息				
15:20 -16:00	特別講演				
16:00 -16:10	休息				

▣ 社会言語學

座長: 李暉洙(放送大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
16:10 -16:50	川口慶子 (崇賢大)	繼承日本語における連林節の習得について —L1・L2との比較を通して—	日	李恩美 (明知大) 小松奈々 (高麗大)	閔 陽子 (漢陽大)
16:50 -17:30	黃永熙 (漢陽Cyber大)	第二言語ライフサイクルの縦断データに みられる日本語の変異と変化	日	迫田亜希子 (Seoul女大) 趙恩英 (釜山外大)	朴堉一 (釜山 Catholic大)
17:30 -18:10	大谷鉄平 (長崎外大)	宣伝文に用いられる語彙の商用的作用 —雑誌の記事見出しにみられる 「ご存じ」の場合—	日	角ゆりか (明知大) 申俊珍 (白石藝大)	大田祥江 (国際交流基金 バンコク日本 文化センター)

第4発表会場

[本館 711]

社会言語学

座長: 姜錫祐(Catholic大)

時間	発表者	主題	発表言語	討論者	司會者
10:00 -10:40	筒井昭博 (梨花女大)	「談話」における合理性と説得力の相克 -岡倉天心著「東洋の覚醒」における 虚偽の議論学的考察-	日	張允熾 (慶熙大) 林始憲 (仁荷大)	郭銀心 (京畿大)
10:40 -11:20	持田祐美子 (平澤大)	韓国における謝罪研究の動向と展望 -日本の場合と比較を通じて-	日	張惠先 (鮮文大) 秋葉多佳子 (韓國外大)	李竣瑞 (聖潔大)
11:20 -12:00	孫榮爽 (濟州大)	텔레비전 영상에 발화자가 등장하는 비율 -연구 방법론 모색을 중심으로- テレビ放送の映像に話し手が映る比率 -研究方法論に関する考察を中心に-	韓	具明會 (江源大) 金禎憲 (三育大)	高恩淑 (韓國外大)
12:00 -13:20	中食・交流				
13:20 -13:40	開會式				
13:40 -15:10	企劃招請講演				
15:10 -15:20	休息				
15:20 -16:00	特別講演				
16:00 -16:10	休息				

社会言語学

座長: 洪珉杓(啓明大)

16:10 -16:50	金清浩 (京都市女子大)	日本手話の語順処理について	日	申惠淑 (鮮文大) 宋淑正 (中源大)	孫宗錫 (延世大)
16:50 -17:30	韓惠盛 (關西外國語大)	形式的な挨拶について -日本語と韓国語の「말이 파세요」を中心に-	日	李受香 (嘉泉大) 張富妍 (延世大)	宋正植 (仁荷工專)
17:30 -18:10	尹祥漢 (釜山經商大)	의약품 패키지에 나타난 위상적 표기 전략 医薬品のパッケージに見られる位相的表記戦略	韓	鄭盛旭 (中央大) 國生和美 (東國大)	盧姁鉉 (嶺成女大)

Poster Session

[本館 1層 M STREET STUDY ROOM]

16:00-17:10

番號	主題	発表者	発表言語
P-01	初対面自由会話における話題展開の一考察 -文化の違いを中心に-	張良光 (Catholic大)	日
P-02	国際共修を目的とした地域文化体験型授業の構築 -インタビュー活動を通じた地域住民との交流を主軸として-	大塚薫 (高知大) 林翠芳 (高知大)	日
P-03	町の印象と外来語表記の関係 -東京の中心と郊外における飲食店メニューの比較から-	渡辺真由子 (首都大学東京)	日
P-04	ICTを活用した遠隔接触場面における 日本語の聞き手言語行動の特徴	李舜桐 (慶北大)	日

地圖·交通案内

[명지전문대학 찾아오시는 길]



① 주소·전화

☎ (03656) 서울시 서대문구 가좌로 134 <☎ 02-300-1000/1114>

② 교통편

【 지하철 이용시 】

- ☞ 2호선 이대역(1,4번 출구) 환승버스 7017(A), 7611(D)
- ☞ 2호선 신촌역(1번 출구) 환승버스 7611(D), 7713(D)
- ☞ 2호선 신촌역(4번 출구) 환승버스 7611(D)
- ☞ 2호선 홍대입구역(8번 출구) 환승버스 7612(D)
- ☞ 3호선 홍제역(2번 출구) 환승버스 7019(B), 7021(A)
- ☞ 3호선 홍제역(3번 출구) 환승버스 7713(C)
- ☞ 6호선 새절역(1번 출구) 환승버스 7017(B), 7018(B), 7021(B)

【 버스 이용시 】

☞ 지선버스 7017, 7018, 7019, 7021, 7611, 7612, 7713, 8774, 7734

【 자가용 이용시 】

☞ 자동차 출입은 명지전문대학 '정문'으로 가능

地圖·交通アクセス

[明知専門大學 交通アクセス]



① 住所·電話

☎ (03656)ソウル市西大門區加佐路134 <☎ 02-300-1000/1114>

② 交通

【 地下鉄のご利用 】

- ☞ 2号線 梨大駅(1, 4番出口)、乗り換えバス 7017(A), 7611(D)
- ☞ 2号線 新村駅(1番出口)、乗り換えバス 7611(D), 7713(D)
- ☞ 2号線 新村駅(4番出口)、乗り換えバス 7611(D)
- ☞ 2号線 弘大入口駅(8番出口)、乗り換えバス 7612(D)
- ☞ 3号線 弘濟駅 (2番出口)、乗り換えバス 7019(B), 7021(A)
- ☞ 3号線 弘濟駅 (2番出口)、乗り換えバス 7713(C)
- ☞ 6号線 セシヨル駅 (1番出口)、乗り換えバス 7017(B), 7018(B), 7021(B)

【 バスのご利用 】

☞ 支線バス 7017, 7018, 7019, 7021, 7611, 7612, 7713, 8774, 7734

【 お車のご利用 】

☞ 自動車の出入りは、明知専門大學 '正門'にて可能

『日本語学研究』論文投稿案内

■ 投稿規定

第1条 (学会誌発刊日程)

	学会誌発刊日	論文投稿締切日
第1回発刊	3月20日	前年12月31日
第2回発刊	6月20日	3月31日
第3回発刊	9月20日	6月30日
第4回発刊	12月20日	9月30日

- ①学会誌は上記の日程で年4回発刊する。
- ②投稿論文は随時受け付け、締め切りは上記のようにする。

第2条 (投稿資格)

- ①原則的に本学会の会員に限る。
- ②会員との共同投稿者及び招請講演者、姉妹学会の会員、編集委員会の推薦による海外からの投稿者は例外とする。
- ③連携協力研究会において発表した論文は、本学会での発表と同一の資格を付与する。

第3条 (投稿対象)

一般会員は本学会の学術発表会での口頭発表の有無と関係なく投稿することができる。

第4条 (論文内容)

日本語学関連の論文として、既存の国内外の学術誌に発表していない独創的な研究論文でなければならない。本学会の研究倫理規定に従わなければならない。

第5条 (掲載限度)

一つの学会誌に掲載することができる論文は一人一編に限る。また、同一人物の単独論文は2回以上連続して掲載しないことを原則とする。ただし、招請論文等の場合は例外とする。

第6条 (分量)

学会で規定した論文作成要領に従い、図及び表を含めて16ページ程度とする。12ページ未満及び20ページ以上の超過は受け付けないことを原則とする。

第7条 (投稿論文受付)

- ①投稿者は本学会の論文作成要領に従って論文を作成し、学会のオンライン投稿システム (<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。
- ②投稿者は学会のオンライン投稿システムに会員登録する際、必ず本人の身分事項を記載しなければならない。
- ③審査用の論文本文には投稿者と関連する事項を一切記載しない。また、編集委員会の監査が記入の有無を確認する。

第8条 (審査)

投稿された論文は審査規定に則り、オフライン編集委員会の主管で3人以上の審査委員の審査を経て、掲載の可否を決定する。審査委員の選定は投稿論文の専攻研究分野を考慮し、オフライン編集委員会で決定する。但し、3人の審査委員には本学会の審査担当編集委員(査読委員)1人以上が必ず含まなければならない。

第9条 (審査料及び掲載料)

- ①審査料は1編あたり6万ウォン、掲載料は一般論文の場合は10万ウォン、研究費受託論文の場合は20万ウォンとする。ただし、無発表論文の掲載料は一般論文20万ウォン、研究費受託論文30万ウォンとする。
- ②学会発表論文として認められる期間は発表日から2年以内とする。
- ③最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、1ページごとに1万ウォンを追加で負担する。
- ④審査料は論文投稿の締切日まで、掲載料は掲載用の原稿提出締切日までに入金する。

第10条 (校正)

原稿の校正は投稿者が責任を持ち、論文の編集は編集委員会の方針に従う。

第11条 (別刷本)

原稿料を別途で支払うことなく、学会誌に論文が掲載された投稿者には学会誌2部と別刷本20部を贈呈する。但し、海外発送の場合には別途30,000ウォンの配送料が発生する。

第12条 (著作権)

受け付けた原稿は返還しない。また、投稿論文が学会誌に掲載された場合、当論文のオンライン及びオフライン著作権は本学会に帰属する。

第13条 (その他)

本規定に明示されていないその他の事項は編集委員会の決定に従う。

<付則>

- ・この投稿規定は、2015年10月30日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2015年12月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2017年09月01日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2018年03月21日から改訂・施行される。
- ・この投稿規定は、2019年01月11日から改訂・施行される。

『日本語学研究』 投稿要領

■ 投稿要領

1. 使用言語

論文は韓国語、日本語または英語で作成する。

2. 使用環境

原稿は ㄱ を使用し、 ㅇ を使用して作成することを原則とし、 ㅇ で入力できない漢字及び記号、図表などは他の紙面で提出する。但し、外国在住などの理由で、 ㅇ を使用できない場合はMSワードを使用して作成する。

3. フォント

韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。

4. 原稿分量

学会で規定した論文作成要領に従って、図及び表を含めて16ページ程度とするが、12ページ未満及び20ページを超過した場合は受け付けられないことを原則とする。最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合、追加掲載料を負担する。

5. 論文内容

次の順序に従い、フォント及び体裁は論文作成要領を参考にする。

① 論文題目

② 著者名: 著者名には脚注に所属、職位、細部専攻を記入する。(論文作成例 参照) 2人以上の共同論文の場合、第1著者を先頭に書き、必要な場合、脚注で著者の所属及び細部専攻の後に“(第1著者、交信著者)”と明示する。

③ 要旨: 要旨(題目含む)は最初のページと最後のページにそれぞれ作成する。論文の最初のページの要旨は300語程度の英語(必須)で作成し、論文の最後のページの要旨は600字程度の分量で英語を除いた論文の本文と異なる言語で作成する。(例: 論文の言語が日本語の場合は韓国語、論文の言語が韓国語の場合は日本語にする)

④ 研究分野: 二つの要旨に投稿論文の研究分野を例に示した分野の中から選択し、明示する。

(例: 音声学(Phonetics)、音韻論(Phonology)、統辞論(Syntax)、形態論(Morphology)、意味論(Semantics)、語彙論(Lexicology)、語用論(Pragmatics)、社会言語学(Sociolinguistics)、日本語教育、(Japanese Education)、日本語史(Japanese History)、その他の日本語学 (Other Japanese Studies))

⑤ キーワード: 二つの要旨に論文の内容を含みうる5つ以内の主題語を要旨と同一の言語で提示する。

⑥ 本文

⑦ 注: 本文の内容を補充する必要がある場合、脚注を作成する。

⑧ 用例出典: 原則的に用例の出典を明らかにする。

⑨ 参考文献: 著者名を基準にして韓国語、日本語、英語の順で作成し、書誌情報は著者名、年度、論文または著書名、論文の場合は掲載誌の巻号、発行機関、ページ数の順で漏れなく記載する。同一著者の文献が二つ以上ある場合、年次順に作成し、二つ目の文献からは著者名の代わりに下線を用いる。

例: 김경수(2003) 「한일어 조사대조」 『일본어학연구』 6 한국일본어학회 pp.1-5
_____(2004) 「일본어 대우표현의 특징」 『일본어학연구』 10 한국일본어학회 pp.1-5
高橋太郎(1969) 「すがたともくろみ」 『日本語動詞のアスペクト』 麦書房 pp.1-5

Rakoff, L. (1973) Language and Women's Place. *Language in Society*, NY: Harper Colophon Books, pp.1-5

6. 図及び表

すべての図は下段中央に、表は上段中央に <図1>、<表1>のように表示し、必ず題目を記入する。

7. インターネット資料

インターネット資料を用例出典及び参考文献として利用した場合、URLの後ろに検索年月日を明示する。

(例: <http://www.jlak.or.kr/> (検索日: 2014.3.20.))

8. 外来語表記

ハングル正書法の外来語表記法に従う。

■ 審査料及び、掲載料入金要領

【予稿集発刊費】

■ 入金期限: 学術発表の発表要旨の投稿締切日(または発表当日)

■ 金額: 10,000ウォン

【審査料】

■ 入金期限: 論文投稿締切日

■ 金額: 60,000ウォン

【掲載料】

■ 入金期限: 掲載用原稿の提出締切日

■ 金額: 学会発表論文: 一般論文(10万ウォン), 研究費受託論文(20万ウォン)

無発表論文 : 一般論文(20万ウォン), 研究費受託論文(30万ウォン)

※ 但し、最終的な掲載論文の分量が20ページを超過する場合は1ページあたり1万ウォンを追加で負担する。

【入金口座】

■ 口座番号: 国民銀行 884201-04-150294 (李吉鎔)

※ 入金時に送金者の氏名及び送金内容を必ず記載すること(例: 山田太郎 審査料)

【審査及び掲載用論文提出先】

本学会オンライン投稿システム(<http://jlak.jams.or.kr>)から提出する。

■ 論文作成要領

論文例示ファイル(ronbunrei.hwp)をダウンロードし、これに作成することを推奨する。

1. 編集用紙の形式は以下の通りである。

■ 種類: 使用者定義, 幅170, 縦240

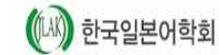
■ 余白: 上20, ヘッダー10, 下10, フッター0, 左15, 右15

2. 論文のフォントは韓国語は「新明朝」、日本語は「新明朝略字」を原則とする。但し、MSワードの場合、韓国語は「明朝」、日本語は「MS明朝」で作成する。各部分別のフォントと体裁は次のとおりである。



- 論文題目 ポイント 16, 太字, 中央寄せ, 行間隔 160
- 副題目 ポイント 12, 中央寄せ, 行間隔 160
- 著者名 ポイント 13, 右寄せ, 行間隔 160
- 要旨 ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160
- 論文分野 ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
- キーワード ポイント 9, 左寄せ, 行間隔 160
- 大見出し ポイント 13, 太字, 左寄せ, 行間隔 160
- 中見出し ポイント 11, 左寄せ, 行間隔 160
- 小見出し ポイント 10, 左寄せ, 行間隔 160
- 本文 ポイント 9.5, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 インデント 10pt
- 引用文 ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 左余白 30pt
(例文など番号がある場合、段落 アウトデント 12pt追加)
- 脚注 ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 130, 段落 アウトデント 12pt
- 参考文献 ポイント 9, 両端揃え, 行間隔 160, 段落 アウトデント 55pt

* 学会ホームページの論文作成例示を参考にすること。



■ 학회사무국	■ 学会事務局
주소: 〒06974 서울시 동작구 흑석로 84 중앙대학교 아시아문화학부 이길용 교수 연구실 H.P : 010・8917・9469(사무국장:전자연)	住所: 06974 Seoul市 銅雀区 黒石路 84 中央大学校 アジア文化学部 李吉鎔教授研究室 携帯 : 010・8917・9469(事務局長:全紫蓮)
E-mail : jlak123@hanmail.net	Homepage : http://www.jlak.or.kr

ニュースレターでは、会員の皆様の近況およびお知らせを掲載しています。
 記事の掲載をご希望の方は、メール(jlak123@hanmail.net)にてご連絡ください。